



6月度の御書

「曾谷殿御返事」 (輪陀王の事)

御文

白馬のなくは我らが南無妙法蓮華經のこえなり。この声をきかせ給う梵天・帝釈・日月・四天等、いかでか色をましひかりを盛かんになし給わざるべき、いかでか我らを守護し給わざるべきと、つよづよとおぼしめすべし。

(御書新版1447ページ、御書全集1065ページ)

意味

白馬がいなくなるとは、私たちの南無妙法蓮華經の声です。この唱題の声を聞いた梵天、帝釈、日月、四天王などが、どうして色つやが良くなつて、かがやきを強くされないことがあるのでしょうか。どうして私たちが守らないわけがあるのでしょうか、強く強く思っていきなさい。

題目はみんなの心を明るくかがやかせる

こんにちは！ ライオン博士のキング君だよ！ この間、公園でポニーに会ったんだ。ポニーの背中に乗って原っぱを駆けた時、おしりに感じる心地よいリズムと、顔に当たる風がとっても気持ちよかったよ。

今日は、馬が登場するお話「リンダ王と白馬」を紹介するよ。はじめ、はじめ～♪

あるところにリンダという王様がいました。リンダ王は、飼っている白馬が「ヒヒーン!」と、いなくなのが大好きでした。

その白馬は、白鳥が大好きでした。白鳥を見ると「ヒヒーン!」と声をあげるのです。

ところがある日、突然、白鳥がいなくなってしまったのです。白鳥がないので、白馬は声を出さなくなりました。

リンダ王は、すっかり元気をなくしてしまいました。それまで王として国の人たちのために一生けんめい働いていたのに、力を出せなくなりました。国全体が暗くすんでいきました。

そこに現れたのが、仏法を学ぶメミュウさんです。「リンダ王が元気になりますように。国の人たちが幸せになり、平和が訪れますように」と祈りました。

すると、どうでしょう！ 白鳥がもどってきたのです。白馬はうれしそうに、いなくなりました。その声を聞いたリンダ王は力を取りもどし、国を平和と安心へと導きました。おしまい♪

仏法の、祈りの力ですごいんだなあ！ 白馬や王様、国中の人たちに希望をあたえたんだもの。

日蓮大聖人は「白馬がいなくなるとは、私たちが唱える南無妙法蓮華經の声です」と教えてくださっているよ。

勤行・唱題をする時、白馬が駆けるようにテンポ良く、さわやかに唱えていくと、勇気がわきあがってくる。そうしてボクたちが唱える題目の声は、世界中、いや宇宙いっぱいにとどろき広がって、生きとし生けるもの、みんなのいい心にあいさつしにいくな。そのいい心が、ボクたちや家族、大切な人を守ってくれるんだよ。池田先生は「題目は宇宙の根本の力です。朝な夕な、白馬が天空を駆け巡るように、軽快に、すがすがしい、唱題の声を響かせていくなです」と語られたよ。

お題目の力で、周囲に無限大の希望を広げていこう！